

友好さらに深く

姉妹都市締結20周年

姉妹都市協会員がバス市ヘリテージ祭りに参加



姉妹都市20周年を記念して栄誉あるパレードの先頭を行進するつがる市チーム



つがる市民とバス市民が力を合わせてねぶたを運行

旧車力村とバス市の姉妹都市締結20周年を記念して、つがる市姉妹都市協会（野呂充志会長）の松橋有紀副会長ら6人が7月3日から7日まで開催されたバス市最大のイベント「ヘリテージ祭り」に参加し、パレードやブースでのPR活動を通して両市の友好を一層深めました。

祭りのメインであるパレードには、つがる市チームが約100団体の先頭を務め、バス市民約30人とともに現地で制作したねぶたを運行し、沿道の観衆から大歓声を受けました。

つがる市ブースでは、姉妹都市交流活動の写真を展示し、焼きそばやりんごジュースの振る舞い、ヨーヨー釣り体験など「日本の祭り」を再現。訪れたバス市民らは、つがる市の魅力や姉妹都市交流について理解を深めていました。

また、チェスボロースイムも行われ、地元の子どもたちが計27名泳ぎ、チェスボローカップ水泳駅伝の目標到達距離に貢献しました。



多くのバス市民が訪れたつがる市ブース



輪投げゲームで交流



バス市YMCAで開催されたチェスボロースイム



日本の文化をエンジョイ



お好み焼きやりんごジュースを振る舞う



ヨーヨーは子どもたちに大人気

命の大切さ、親の愛情を体感 森田中学校「赤ちゃんふれあい教室」



赤ちゃんを一生懸命あやす生徒たち

育児の体験を通して命の大切さを学んでもらおうと7月19日、森田保健福祉センターで森田中学校（新潟春夫校長）2年生38人を対象に「赤ちゃんふれあい教室」が行われました。

この日は市内の赤ちゃんとお母さん、お父さん14組が参加し、6班に分かれ赤ちゃんとお対面。生徒たちは最初は緊張した面持ちでしたが、お母さんたちに教えてもらいながら抱っこしたり、おむつを取り替えたりしていました。

山谷紗友美さんは「赤ちゃんは泣いたり動いたり大変だったけど、抱っこしたら柔らかくてかわいかった」と感想を話し、太田光紅ちゃんの母親の智美さんは「育児はなかなか思い通りにいかないと思うけど楽しいので、将来がんばってください」とエールを送りました。



将来はイクメン！？



授乳を体験



緊張しながら抱っこ



さまになっています

郷土の誇り懸け、たすきつなぐ 県民駅伝つがる市選手団結成

第21回青森県民駅伝競走大会（9月1日、青森市開催）に出場するつがる市選手団が結成されました。近年、つがる市の成績が低迷する中、チーム一丸となって順位アップを目指しますので皆様のあたたかいご声援をお願いします。

青森県民駅伝競走大会つがる市選手団

一戸 雅之（陸上自衛隊弘前駐屯地）	花岡 樹（五所川原高校3年）	加藤 翔大（木造中学校2年）
吉田 匡克（ヨシタファーム）	鎌田 遼（五所川原農林高校2年）	川越 七重（つがる市役所）
小原 将敬（航空自衛隊車力分屯基地）	安田 暢弥（木造中学校3年）	川越 南実（五所川原高校1年）
渡辺 悠貴（航空自衛隊車力分屯基地）	野呂 慎也（木造中学校3年）	境谷 柚希（柏中学校2年）
田中 匠瑛（青森大学4年）	鈴木 規真（車力中学校3年）	松橋 和奏（車力中学校1年）

監督：一戸 雅之 コーチ：外崎 誠、吉田 匡克



田中 匠瑛 さん
（青森大学4年）

昨年は1区で11位でした。スタミナ面を強化して今年は9位以内に入りたい。昨年つがる市は市の部で最下位だったので、みんなで力を合わせて1つでも順位を上げたいです。



川越 南実 さん
（五所川原高校1年）

昨年初めて5区を走りました。今年は1キロ4分を切るペースで走ってタイムを上げ、つがる市チームに貢献できるようがんばります。